

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 引野 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

教科に関する調査(国語、数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

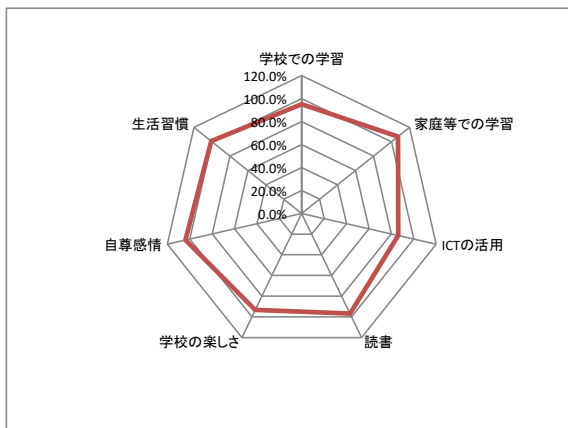
(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、理科)の結果

本年度の結果	国語		数学		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	6.6	47	9.8	47
全国	9.7	69	7.2	51	10.4	49

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	○どの事項もまんべんなく、全国平均を上回っている。10問以上正解している生徒が7割を超えている。特に思考力・判断力・表現力等に関する問題の方が正答率が高い。また問題形式に関しては「選択式」より「記述式」の問題の方がより多く平均を上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	○自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫して話す問題 ○文脈に即して漢字を正しく書く問題	
	努力が必要な問題	○表現の技法について理解する問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	○平均正答率は全国平均をやや上回っている。数と式、図形の問題で全国平均を下回っており、評価の観点では知識・技能に関する事項が全国平均をわずかに下回っている。問題形式は「記述式」の方が正答率が高くなっている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	○データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる問題。 ○箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる問題。	
	努力が必要な問題	○反例の意味を理解している力を問う問題。 ○問題場面における考察の対象を的確に捉えることができる力を問う問題。	
理科	全体的な傾向や特徴など	○平均正答率は全国平均を上回っているが、正答率が下回っている領域もある。また問題形式については国語・数学と異なり、「短答式」問題の正答率が高いが「記述式」は低い。知識・技能については比較的身につけているものの、持っている知識を活かして表現する力には課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	○おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する問題。 ○水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとを指摘する問題。	
	努力が必要な問題	○気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○知識・理解を深めることができているが、それらを活用して物事事象について表現したり、説明したりする力を伸ばす必要がある。そのため各教科においてキーワードを用いて目の前の事象について説明させるような学習活動に取り組ませる。
○授業におけるICTの積極的な活用。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○週末に家庭でも30分以上の読書活動を行えるような取組(週末貸し出し、家庭学習の課題にするなど)を行い、保護者にも呼びかける。
○スマホ等の使用時間、SNS等の活用について、家庭でのルールを明確にするよう各家庭に呼びかける。
○早寝、早起き、朝ご飯などの基本的な生活習慣について、その重要性を改めて生徒、保護者に啓発する。